

愛知県の取組状況

1 イベントの実施（平成25年度）

- ①リニモ沿線ウォーキング（※沿線市共同事業）【通年（5～6月、10～11月、2～3月）】事業中
・沿線地域の自然や名所、観光施設等の魅力に触れてもらうリニモ沿線ウォーキングを13回開催。
- ②わくわく体験リニモツアーズ2013（※沿線市共同事業）【夏休み期間の特定日】2,357名参加
・夏休み期間中、沿線施設において小学生を対象とした体験講座等を用意し、社会学習等の機会を提供。
- ③夏休みリニモ親子教室【夏休み期間の特定日】1,550名参加
・夏休み期間中、親子向けに、リニモ体験乗車と愛・地球博記念公園を会場とした工作教室等を実施。
- ④大ぼぶかる展【9月14日（土）、15日（日）】18,000人 来場
・ポップカルチャーをテーマとしたイベントを愛・地球博記念公園で開催し、地域の賑わい創出を図った。
- ⑤リニモ沿線ミュージアムウィーク【10月12日（土）から11月4日（月）】6,532人参加
・沿線地域の7つの文化施設が共同して、地域の文化を掘り起こし繋げる多彩なイベントを開催。
- ⑥リニモ車両基地見学会＆春休みリニモツアーズ（※沿線市共同事業）【春休み期間の特定日】事業中
・一般県民を対象に、リニモへの体験乗車と沿線施設での体験講座・見学をセットにしたプログラムを提供。
- ⑦ドラえもんリニモスタンプラリー【2月22日（土）から3月26日（水）】事業中
・「ドラえもん」をイメージキャラクターとして、沿線施設を巡るスタンプラリーを実施。

2 その他沿線施設における取り組み

- ①「愛・地球博記念公園」【H24年度利用者数：1,476,800人 ※H20年度：1,210,600人】
・愛知万博理念継承事業として、自主イベント「モリコロパーク秋まつり・春まつり」を開催するほか、各種持ち込みイベントの開催支援を実施。リニモ利用による来園の呼びかけ。
- ②「愛知県陶磁美術館」【H24年度利用者数：102,675人 ※H20年度：77,000人】
・常設展や年間5本の企画展・特別企画展の開催や作陶体験施設「陶芸館」の運営を始め、毎月第3日曜日の「ふれあい陶芸体験日」等のイベントを開催。
※リニモ一日乗車券の持参により、企画展・特別企画展観覧料金が2割引となる。
- ③「あいち産業科学技術総合センター」【見学者数：17,534人 ※H25.12までの累計】
・各種講演会、科学技術教室、一般見学会などを開催。
- ④「愛知県児童総合センター（愛・地球博記念公園内）」
・リニモの歴史や仕組みを学べるリニモコーナーを常設設置。
- ⑤「愛知県農業総合試験場」
・研究成果を県民の皆様に紹介する「農業総合試験場公開デー」を開催（11月）。
- ⑥「あいち海上の森センター」
・県民参加の各種体験事業の開催（※H25年度：9回）。
- ⑦「愛知県立大学・愛知県立芸術大学」
・自動車通学の基準厳格化、学生へのリニモ利用を促すパンフレット配布など、啓発活動を実施。警察官採用試験など県関連試験会場としても積極活用。

◎ 上記イベント・施設等の一体的な広報を行うため、沿線施設を紹介する「リニモ沿線マップ」や沿線で開催されるイベント等を紹介する「リニモ沿線イベントガイド」を作成し情報提供を行っている。

3 ハード面の取り組み

(1) 知の拠点あいち

ア 事業及び施設の概要

- ・付加価値の高いモノづくり技術を支援するため、最先端の研究開発環境を備えた拠点を整備。モノづくりのイノベーションの基盤となるナノテクノロジーを核に、IT、バイオも融合した研究プロジェクトを展開し、革新的な製造システム、付加価値の高い製品・素材につながる技術の創造を目指す。

イ 既整備施設

①あいち産業科学技術総合センター（中核施設）

【供用開始：平成24年2月14日（火）、運営：愛知県】

- ・大学の研究シーズを企業の事業化につなげる産・学・行政の共同研究プロジェクトを実施。
- ・高度かつ汎用的な計測機器による分析・評価、ソリューション機能により企業の研究開発、製品開発を支援。

- ・中堅・中小企業に対して、製品化・事業化に向けた研究開発から試作までを支援。

②あいちシンクロトロン光センター

【供用開始：平成25年3月22日（金）、運営：（公財）科学技術交流財団】

- ・ナノテクノロジー分野において電子顕微鏡とともに注目されるシンクロトロン光利用施設。産業利用を主目的にした地域共同利用施設として誕生。



(2) 愛・地球博記念公園

ア 事業及び施設の概要

- ・愛知万博の長久手会場として活用された「愛・地球博記念公園」を、博覧会の理念と成果を継承する21世紀にふさわしい都市公園として再整備する。

イ 既整備施設《平成24.25年度》

- ・《平成24年度》テニスコート(6面)、テニス兼用フットサルコート(2面)、サイクリングコース、多目的球技場、《平成25年度》あいちサトラボ「農のエリア」

※ 全体計画面積194.2haのうち149.4ha（約77%）を既供用中

ウ 今後の予定

- ・キャンプ場(デイキャンプ利用中心)、こどものひろば(子供のレクリエーションの場)、県民公園づくり空間などの整備が予定されているが、「都市緑化フェア(H27.9～)」に向けた関連施設の整備計画が優先されるため、同フェアでの施設整備状況を考慮した上で推進する。

4 その他の取り組み

(1) 「パーク&ライド駐車場」の運営など

ア 目的

- 公共交通の利用促進と愛知万博の理念である「環境」活動の推進を図る観点から、リニモへの通勤・通学転換対策を実施することによりリニモ沿線の公共交通機関の利用を促進する。

イ 実施内容

①パーク&ライド駐車場の運営

- 愛・地球博記念公園駅北側：246台分（契約者数265名、平成26年2月末実績）

※ 沿線地域全体にはパーク&ライド駐車場が

②リニモ沿線レンタサイクル

- 通勤・通学者及び沿線観光・レジャー目的でのリニモ利用者を対象に自転車を無料貸し出し（合計140台）。

※ 杖ヶ池公園駅近く自転車ジョイ長久手店にて貸し出し。25年度(上期)で、通勤・通学利用は1日平均貸出数67.4台、月間最大貸出数99台(6月)、観光・レジャー利用は計191台貸出の実績。

ウ 今後の予定

- 利用拡大に向け、引き続き啓発活動などを行う。

(2) リニモ沿線地域における渋滞問題への対応

ア 概要

- リニモ沿線地域においては、これまでもモリコロパークでの大イベント開催時などに周辺道路が渋滞し問題となっているが、今後、全国都市緑化フェアの開催や大規模商業事業者の出店が予定され、さらなる交通渋滞の発生が懸念される。
- そこで、関係機関が一体となってリニモ沿線地域の渋滞問題に対処するため、平成26年1月、県建設部門を含めた関係者間で、リニモ沿線地域の渋滞対策を検討するワーキンググループを開催し、情報の共有及び対応策の検討を開始した。

(※ワーキンググループ事務局：県地域政策課)

イ 今後の取り組み予定

- 関係機関で実現可能な対応策をまとめ、実施に向けた調整を行う。

(3) 第32回全国都市緑化あいちフェア

ア 概要

- 「全国都市緑化フェア」は国・地方公共団体・民間の協力による都市緑化を全国的に推進し、緑豊かな潤いのある都市づくりを目的として、昭和58年度から全国各地で毎年開催している。
- 第32回は「全国都市緑化あいちフェア」として、平成27年9月12日から同年11月8日まで、愛・地球博記念公園をメイン会場として開催することが決定。期間中、サテライト会場を含め約100万人の来場を見込んでいる。

イ 今後の取り組み予定

- あいちフェアのメイン会場となる愛・地球博記念公園の会場整備（フェア展示会場、大芝生広場野外音楽施設及び公園西駅エントランス等）、臨時駐車場の整備を行う。
- あいちフェア開催時の催事・展示計画について関係機関等と調整や、あいちフェアの広報宣伝などを行う。
- 来場者による道路交通渋滞を回避するために、リニモ利用促進策を関係機関などと調整を行う。

ウ 会場計画図

